

イズミが塩カズノコスキンパック

露産カリフツド製造、年末販売へ

中四国、九州地盤のゆめタウン・ゆめマートなどを運営する大手量販店のイズミ（広島市）は今年の年末に、ロシア産カズノコ原料輸入などを手掛けるカリフツド（東京都大田区、井出敬也社長）が製造する同産塩カズノコのスキンパック製品を販売する。スキンパックは特殊なフィルムで素材全体をびったりと覆う包装方式。商品の見栄えが良くなり、賞味期限が長くなる特徴があり、包装資材の使用量や商品輸送時の二酸化炭素排出量削減、食品ロス抑制につながるとして注目されている。

イズミは年末商戦で販売する塩カズノコについて、従来は発泡トレイや紙箱などを使う、いわゆる化粧箱タイプの製品を取り扱ってきた。今年の年末商戦ではスキンパック形態の塩カズノコを採用し、具体的にはカリフツドが製造するいずれも同産の「一本羽皮むき300g」「折れ子皮むき320g」をラインアップするようだ。

包装資材少なく 賞味期限延長も

スキンパック製品は素材表面の凹凸がはっきり分かることから売り場で消費者の目を引き、一部の干物製品などで利用さ

れている。包装資材使用量が限りなく少なく、包装を含めた商品の容積が小さくなる利点もある。トラックなどに効率的に積み込め、商品輸送時の二酸化炭素排出量の削減にも貢献するとい

う。同社の同産塩カズノコのスキンパック製品は包装資材重量を同社の化粧箱製品と比べて80%以上削減。さらに同社は酸素透過量が一般的なフィルムの約350分の1と限りなく少ない特殊フィルムを採用し、カズノコの変色や鮮度劣化の原因となる酸素の透過を高度に遮断できるのが強み。

井出社長は「精肉など

エーン、バックヤードでの指定温度以上での一時保管でもカズノコの変色や鮮度劣化を抑える効果的なパッケージ方式」と強調する。

今回のイズミの塩カズノコのスキンパック製品採用については「時代を大きく先取りする取り組み。カズノコは多くの場合、贈答用も自家消費も等しく化粧箱で流通しているが、今後は少なくとも自家消費分については包装の簡素化による環境配慮、低コスト化、食品ロス削減といった流れになると思う。今回の取り組みがその布石になればと考えている」（井出社長）。



カリフツドが製造するロシア産塩カズノコのスキンパック製品

